

名張かわまちづくり 第1回空間デザイン意見交換会 かわら版

第1回空間デザイン 意見交換会

次 第

1. 開会
2. 自己紹介
3. 資料説明
4. 現地見学
5. 意見交換
6. まとめ
7. 閉会

日 時：令和5年3月24日 13:30~16:30

会 場：名張産業振興センター アスピア 会議室F

参加者：名張市民、商工会議所職員、名張市役所職員等 計12名

1. 開会・あいさつ (13:30)

○開会宣言の後、名張市伊集院室長よりあいさつ

国土交通省が行なう河川改修に伴う河川空間の利活用について、「名張かわまちづくり協議会」を設置し検討してきた。今般の意見交換会はゼロベースで河川空間の利活用を再度検討する機会として設定した。市民の新しい憩いの場、市街地との連携を深めより良い場の整備に向けて、ご意見を賜りたい。

続いて、まちづくり協議会会長より挨拶

これまで実行部会では河川空間の使い方について検討してきたが、今般は若い人たちを中心として様々な考えを出していただければと思う。実現できるか否かは別にして、河川空間でできたら良いなと思うことを出し合い、どのようなまちにするかという事も含めてご意見を頂きたい。

2. 自己紹介 (13:35)

○ファシリテーター岩本氏の挨拶

水辺総研の岩本です。四日市市出身で、今般三重県のかわまちづくりに参加できる機会を頂きありがたい。自然に囲まれ、旧街道もあり大変魅力のある町と感じているが、地元の皆さんはどう感じておられるのかお聞きするところから始めて行きたい。

○事務局スタッフ紹介

3. 資料説明 (13:35)

○事務局より配布資料を説明

- ① 意見交換のねらい
- ② 名張かわまちづくりについて
- ③ コンセプト・利活用イメージについて
- ④ 今後の進め方

○岩本氏よりコメント

かわまちづくり事業とは、河川整備という治水の観点から国（国交省）が行なうばかりではなく、市として考えるまちの魅力づくりとの観点をうまくかみ合わせて行なうものである。名張川



は川幅を広げなくてはならない治水上の方針から今般のかわまちづくりがスタートしている。今回の意見交換会はこの大規模な河川整備の変革点の重要な機会に設定されるもので、参加者の皆さまはその変革のチャンスに立ち会っていると認識して取り組んで頂きたい。

4. 現地見学 (13 : 50)

徒歩にて名張大橋北詰及び整備済みの親水護岸（右岸新町護岸）に移動し視察。

国土交通省矢間技術副所長より事業の概要が説明された。

○参加者からの意見

- ・黒田橋の掛け替えについて、歩行者の安全のため幅員を広げられないか。→ 現状機能の維持という改修の原則があり、理由がないと規模の拡大は難しい。
- ・引堤のため現在のソメイヨシノは伐採し、新たに樹木を植栽し新しい堤として復元する。季節感のある歩行者動線を確認することは良い。
- ・ソメイヨシノに限らず、季節感のある植物に彩られる道となって、歩いて楽しい川辺であって欲しい。花期の長いカワヅザクラは最近人気が高まっている。
- ・「さくらであい館」の紹介：宇治川・木津川・桂川が合流する三川合流地域の地域間交流や地域振興、観光周遊の拠点として人・物・情報が出会うスペース（京都府八幡市八幡在応寺地先）が整備。



5. 意見交換 (14 : 35)

○ライブ投票アンケート（その1）

意見交換に先立ち、QRコードからアクセスするライブ投票アンケート（岩本氏作成）を実施。その1のテーマは「かわまちづくりの認知度」。認知度30%強に止まり、広報への注力が求められる結果となった。

意見交換は参加者を2班に分け、ワークショップ形式で行った。

メンバー：名張かわまちづくり協議会、名張商工会議所からの推薦、市役所のUROKOプロジェクトメンバーほか17名が参加

始めるにあたり、岩本氏より事例紹介を含めた「ミズベリング」の可能性や取り組むスタンス、意気込みなどについてのレクチャーがあった。

○岩本氏のレクチャー

「ミズベリング」とは、これまで行政に任せっきりであった水辺のあり方を自分事として考える人々の応援のためのプロジェクトである。

名張川と共に発展してきた名張市において、今般のかわまちづくり事業は大きな変革のチャンスと考えている。河川は国（国土交通省）の管轄で治水行政が行われるが、川と人間の関係を作り直すことでより良いかわづくり・まちづくりを図ろうとしている。河川法改正に伴う規制緩和によりさまざまに可能性が膨らみ、川がまちの人たちにとって何のためにあるのかを考える良い機会となって、整備計画の方針決定のプロセスに積極的に参加するチャンスであると言える。河川であるが故、制約は

○岩本氏による講評・まとめ

このまちならではの魅力を発信または表現する機会はなかなか無いものだ。かわまちづくりはその魅力を知り合い、表現し合う機会でもある。このまちらしさを伝え合う、この意見交換の場所にしていきたい。

今後は具体的なデザインをしてゆく段階となるが、大切にしたい価値や思いを担保することを大事にしていきたい。デザイナーを市民が支えるようなプロセスを楽しみたい。また、例えばキッチンカー導入等をデザインするときにはやりたいことを実験的にやってみて、その実験から成果や課題を共有しながら進めていく方法も試してみたい。

7. 閉会 (16:30)

○ライブ投票アンケート (その3)

その3のテーマは「名張かわまちづくりへの今後の参加について」。結果は右の通りである。約80%の方々が今後も何らかな形での参画を表明している。



○まちづくり協議会会長より挨拶

実行部会とは違う多彩な意見を頂いた。今後は実際にこの「かわまち」で事業を運営したい、グループを設立したいという人を募集していきたい。「かわまち」を拠点に、まちづくりに関わることの面白さを感じている。

○名張市伊集院室長より挨拶

多くの意見を頂き感謝している。「かわまち」で残す(守る)もの、新しく創るもの、全てがこれからのかわまちづくりの未来に展開するものと感じた。

参加者の集合写真を撮影して閉会した。

